

# 荒れた人工林に光戻る

沼津市足高で手入れされずに荒れていた10・6畝に及ぶヒノキの人工林について、メンバールの平均年齢が73歳のNPO法人「環境整備・森と竹で健康クラブ」(貞清恒夫代表)が10年かけて森林公園に生まれ変わらせた。19日に現地報告会が開かれた。

【石川宏】

## NPO法人が手入れ



間伐によって太陽の光が差し込んだ愛鷹運動公園の森  
沼津市足高で

## 沼津・10年かけ森林公園に整備

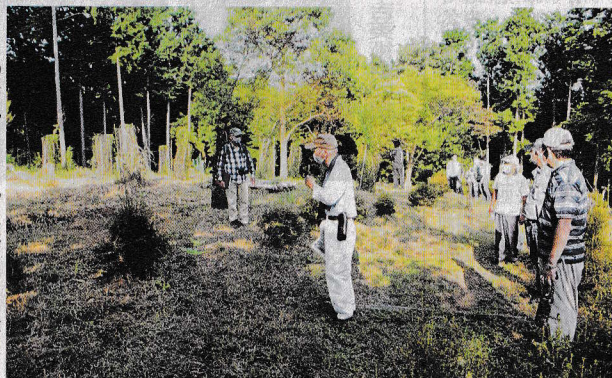
現地は愛鷹運動公園の25人は週2回のペーの一角。ヒノキの樹齢は60年以上で、市が土地を入手した1973年以前に植えられたものだった。木々が密集して太陽の光が地面に届かず、下草が生えないうえ、地面は裸地も同然。一部はササが生い茂り、枯れ木や倒木も放置されていた。クラブは「市民が気軽に散策できる森林公園にしよう」と2010年に当時の栗原裕康市長の了解を得て活動を開始した。60〜80代

の25人は週2回のペースで集まり、ササを刈って危険な枯れ木を伐採。間伐材で遊歩道の階段をつくり、専門家に樹種を確認して遊歩道沿いの木々に自作の名札をかけた。11年の台風15号で約150本の風倒木の被害もあった。整備後に季節の花を咲かせるロウバイや梅、ソメイヨシノやムクゲなどを植えて「木の花咲くやっ

津市街や駿河湾が一望できる高台は「花と海の見える丘」とした。19日の現地報告会に参加して森を歩いた頼重秀一市長は「利用者の立場に立って、放置されていた人工林を整備していただき、感謝している。新たなビューポイントも発見できた。積極的にPRしたい」と感動した面持ち。貞清代表は「10年間の活動が報告できて、ホッとしている。手入れをしないと山は荒れるのでボランティアを継続したい」と意欲を示した。



もっと知りたい



台風による風倒木があった跡地に花が咲く木を中心に植えた「木の花咲くやっソーン」  
沼津市足高で

